



みずほUSハイイールドオープン（年1回決算型）為替ヘッジあり

2019/5/31現在

追加型投信／海外／債券

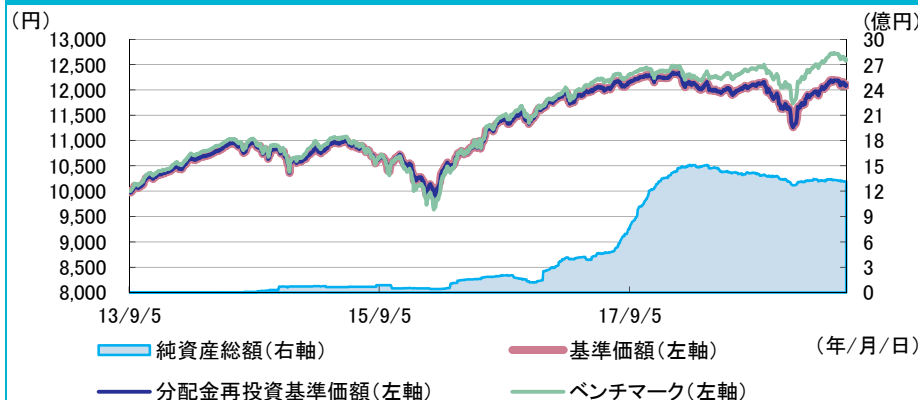
設定日	2013/9/6	基準価額 (前月末比)	12,090円 (-97円)	設定来高値	12,342円	2018/1/29
償還日	2028/6/7	純資産総額 (前月末比)	1,315百万円 (-18百万円)	設定来安値	9,872円	2016/2/12
決算日	原則6月7日					

ベンチマーク: ICE BofAML US キャッシュ・ペイ・ハイイールド・インデックス(円ヘッジベース)

※基準価額は10,000口当たり

ファンドの基準価額とベンチマーク、純資産総額の推移

(期間: 2013/9/5 ~ 2019/5/31)



期間別騰落率

期間	ファンド	ベンチマーク
1カ月	-0.8%	-1.0%
3カ月	1.0%	0.8%
6カ月	3.6%	4.0%
1年	1.1%	3.0%
3年	11.2%	15.7%
5年	11.6%	15.3%
10年		
設定来	20.9%	25.9%

・ファンドの騰落率は分配金再投資基準価額より算出しており実際の投資家利回りとは異なります。

- ・基準価額および分配金再投資基準価額は、信託報酬控除後の値です。ベンチマークを含め、設定前営業日を10,000として指数化しています。
- ・分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を再投資したものとして算出しています。

分配実績 (分配金は10,000口当たり、税引前)

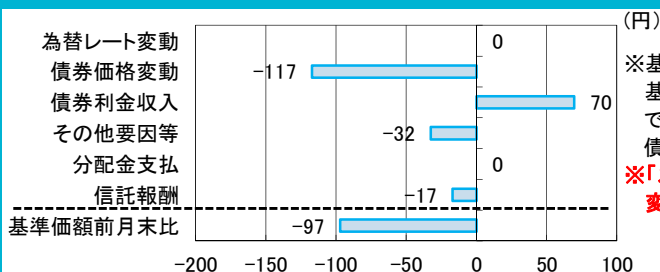
決算期	日付	分配金	決算期	日付	分配金
第1期	2014/06/09	0円			
第2期	2015/06/08	0円			
第3期	2016/06/07	0円			
第4期	2017/06/07	0円			
第5期	2018/06/07	0円			
設定来分配金累計額					0円

ポートフォリオの状況

外国債現物	94.4%	488銘柄
外国株現物等	0.8%	9銘柄
その他資産	4.8%	
外国債先物	0.0%	
為替ヘッジ比率	98.1%	

- ・組入比率は、ベビーファンドの純資産総額に対する比率を表示しています。外国株現物等は株式や新株予約権証券を含みます。その他資産は、100%から外国債現物・外国株現物等の組入比率の合計を差し引いたものです。
- ・為替ヘッジ比率は、実質組入外貨建資産に対する為替ヘッジの比率を表示しています。

当月の基準価額の変動要因 (下記の数値は概算値であり、その完全性、正確性を保証するものではありません。)



※基準価額の変動要因分解は、該当期間中の日々の為替レートや利金収入などを基に、アセットマネジメントOneが算出した概算値であり、傾向を説明する為の参考値です。その他要因等は基準価額前月末比より、為替レート変動、債券価格変動、債券利金収入、分配金支払、信託報酬を引いて算出したものです。
※「為替ヘッジあり」と「為替ヘッジなし」の基準価額の水準が異なるため、債券価格変動や債券利金収入の値は、各コースで異なります。

お知らせ

今月のお知らせはありません。

当資料はファンドの運用状況に関する情報提供を目的としてアセットマネジメントOneが作成した資料であり、投資信託説明書(交付目論見書)ではありません。後述の「投資信託ご購入の注意」、「当資料のお取扱いについてのご注意」をよくお読みください。



みずほUSハイールドオープン（年1回決算型）為替ヘッジなし

2019/5/31現在
追加型投信／海外／債券

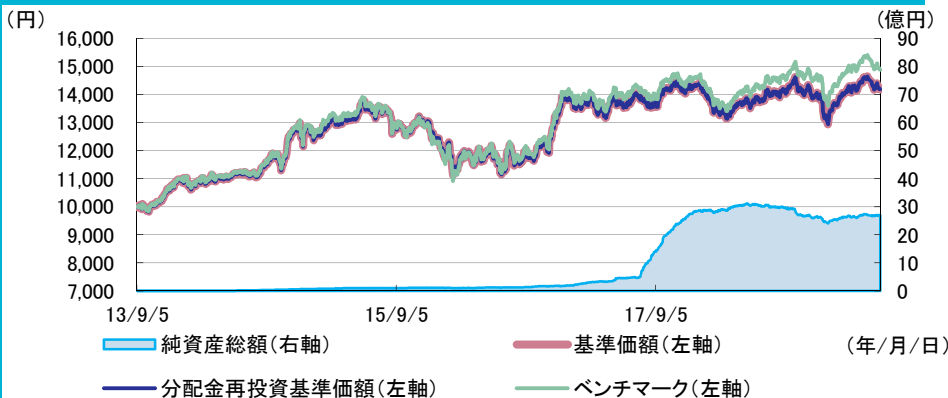
設定日	2013/9/6	基準価額 (前月末比)	14,181円 (-395円)	設定来高値	14,642円	2019/4/25
償還日	2028/6/7	純資産総額 (前月末比)	2,696百万円 (-5百万円)	設定来安値	9,817円	2013/10/8
決算日	原則6月7日					

ベンチマーク: ICE BofAML・US・キャッシュ・ペイ・ハイールド・インデックス(円ベース)

※基準価額は10,000口当たり

ファンドの基準価額とベンチマーク、純資産総額の推移

(期間: 2013/9/5 ~ 2019/5/31)



- ・基準価額および分配金再投資基準価額は、信託報酬控除後の値です。ベンチマークを含め、設定前営業日を10,000として指数化しています。
- ・分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を再投資したものと算出しています。

期間別騰落率

期間	ファンド	ベンチマーク
1カ月	-2.7%	-2.9%
3カ月	0.3%	0.2%
6カ月	1.5%	1.8%
1年	4.6%	6.5%
3年	16.6%	21.5%
5年	28.2%	33.8%
10年		
設定来	41.8%	48.8%

・ファンドの騰落率は分配金再投資基準価額より算出しており実際の投資家利回りとは異なります。

分配実績 (分配金は10,000口当たり、税引前)

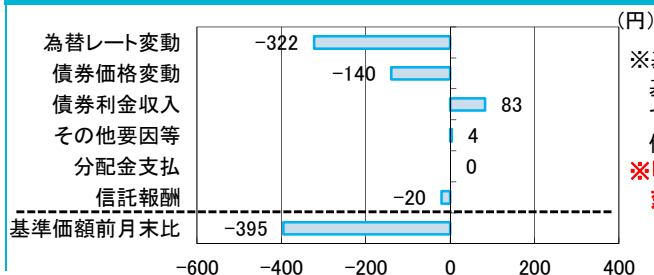
決算期	日付	分配金	決算期	日付	分配金
第1期	2014/06/09	0円			
第2期	2015/06/08	0円			
第3期	2016/06/07	0円			
第4期	2017/06/07	0円			
第5期	2018/06/07	0円			
		設定来分配金累計額			0円

ポートフォリオの状況

外国債現物	94.4%	488銘柄
外国株現物等	0.8%	9銘柄
その他資産	4.8%	
外国債先物	0.0%	
為替ヘッジ比率	0.0%	

- ・組入比率は、ベビーファンドの純資産総額に対する比率を表示しています。外国株現物等は株式や新株予約権証券を含みます。その他資産は、100%から外国債現物・外国株現物等の組入比率の合計を差し引いたものです。
- ・為替ヘッジ比率は、実質組入外貨建資産に対する為替ヘッジの比率を表示しています。

当月の基準価額の変動要因 (下記の数値は概算値であり、その完全性、正確性を保証するものではありません。)



※基準価額の変動要因分解は、該当期間中の日々の為替レートや利金収入などを基に、アセットマネジメントOneが算出した概算値であり、傾向を説明する為の参考値です。その他要因等は基準価額前月末比より、為替レート変動、債券価格変動、債券利金収入、分配金支払、信託報酬を引いて算出したものです。
※「為替ヘッジあり」と「為替ヘッジなし」の基準価額の水準が異なるため、債券価格変動や債券利金収入の値は、各コースで異なります。

お知らせ

今月のお知らせはありません。

当資料はファンドの運用状況に関する情報提供を目的としてアセットマネジメントOneが作成した資料であり、投資信託説明書(交付目論見書)ではありません。後述の「投資信託ご購入の注意」、「当資料のお取扱いについてのご注意」をよくお読みください。



みずほUSハイールドオープン（年1回決算型）

< マザーファンドの資産組入状況 >

2019/5/31現在

ポートフォリオの状況

	ファンド	ベンチマーク
平均利回り（終利）	6.47%	6.78%
平均直利	6.26%	6.51%

平均利回り（終利）は保有する債券の終利を、平均直利は保有する債券のクーポンを時価で除した値を、各々債券ポートフォリオ中の各銘柄の時価評価額で加重平均したものです。原則として、デフォルトしている銘柄は計算対象から除外しています。

公社債組入上位15銘柄

順位	銘柄名	クーポン	償還日	格付け	比率	業種	業種明細
1	スプリント・キャピタル	6.875%	2028/11/15	B-	2.0%	通信	無線
2	CCOホールディングス	5.750%	2026/02/15	B+	1.1%	メディア	ケーブルテレビ・衛星放送
3	アライ・ファイナンシャル	8.000%	2031/11/01	BB	0.9%	銀行	銀行
4	ディッシュ DBS	7.750%	2026/07/01	B-	0.8%	メディア	ケーブルテレビ・衛星放送
5	アルティス・フランス	7.375%	2026/05/01	B	0.7%	メディア	ケーブルテレビ・衛星放送
6	TモバイルUSA	6.500%	2026/01/15	BB	0.7%	通信	無線
7	トランスダ임	6.375%	2026/06/15	B-	0.6%	資本財	航空宇宙・防衛
8	テスラ	5.300%	2025/08/15	CCC+	0.6%	自動車	自動車
9	インテルサット・ジャクソン・ホールディングス	5.500%	2023/08/01	CCC	0.6%	通信	衛星通信
10	ユナイテッド・レンタルズ	4.875%	2028/01/15	BB-	0.6%	サービス	商業サービス
11	アルティス・ルクセンブルク	7.750%	2022/05/15	CCC+	0.6%	メディア	ケーブルテレビ・衛星放送
12	シリウスXMラジオ	5.000%	2027/08/01	BB-	0.6%	メディア	コンテンツ製作関連
13	カルバイン	5.750%	2025/01/15	B	0.6%	公益	発電
14	テネット・ヘルスケア	5.125%	2025/05/01	B-	0.6%	ヘルスケア	医療施設
15	ネットフリックス	4.375%	2026/11/15	BB-	0.6%	メディア	コンテンツ製作関連

公社債組入上位5銘柄の概要

順位	銘柄名	概要
1	スプリント・キャピタル	スプリント（米国の通信サービス会社）のグループ企業であり、債券の発行・売出による資金調達を担う。
2	CCOホールディングス	米国のブロードバンド通信サービス会社。ケーブルビデオ番組や高速インターネット、電話サービスを提供。
3	アライ・ファイナンシャル	米国の金融持株会社。主に、自動車関連の金融サービスを提供。
4	ディッシュ DBS	米国の衛星放送サービス会社。商業、家庭向けにテレビ、音声番組、双方向番組等のサービスを提供。
5	アルティス・フランス	アルティス・ヨーロッパ（Altice Europe N.V.）傘下のケーブル・通信サービス会社。フランスで事業を展開。

公社債の残存年数別組入比率

残存年数	比率
1年未満	0.9%
1年以上3年未満	4.1%
3年以上5年未満	17.1%
5年以上7年未満	39.9%
7年以上10年未満	32.2%
10年以上	5.8%
修正デュレーション	5.2

修正デュレーションは債券価格の金利変動に対する感応度を示す指標です。この値が大きいほど、金利が変化した際の債券の価格変動が大きくなります。

公社債の上位業種別組入比率

順位	業種	比率
1	エネルギー	13.6%
2	素材	12.2%
3	メディア	12.0%
4	ヘルスケア	10.7%
5	通信	6.0%
6	資本財	5.9%
7	サービス	5.8%
8	電機・テクノロジー	5.7%
9	娯楽	4.7%
10	小売	4.7%

公社債の格付け別組入比率

格付け	比率
BBB以上	2.3%
BB	34.1%
B	42.6%
CCC	16.6%
CC	0.2%
C	0.7%
D	0.1%
無格付け	3.4%

※当該個別銘柄の揭示は、銘柄推奨を目的としたものではありません。組入比率はマザーファンドの公社債現物に対する比率を表しています。

格付けはS&P、Moody'sのうち、低い方の格付けを採用しています。（表記方法はS&Pに準拠）

当資料はファンドの運用状況に関する情報提供を目的としてアセットマネジメントOneが作成した資料であり、投資信託説明書（交付目論見書）ではありません。後述の「投資信託ご購入の注意」、「当資料のお取扱いについてのご注意」をよくお読みください。



みずほUSハイールドオープン（年1回決算型）

< 参考情報と運用コメント >

2019/5/31現在

投資環境

【米国ハイールド債市場】

米国ハイールド債市場は、下落しました。米中貿易摩擦の激化懸念が強まる中、米株価が軟調に推移するなどリスク回避姿勢が強まったことや、原油価格が下落したことなどが、下落要因となりました。対米国国債スプレッドは、拡大しました。

格付別収益率は、BB格が-0.3%、B格が-0.8%、CCC格が-2.1%となりました。業種別は、通信、保険セクターなどの収益率が市場平均を上回った一方で、エネルギー、自動車セクターなどの収益率が市場平均を下回りました。

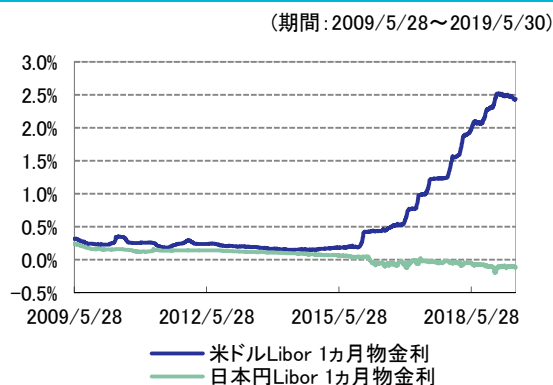
【為替市場】

米ドルは、対円で下落しました。米中貿易摩擦の激化懸念による投資家のリスク回避の動きなどから、円高米ドル安が進行しました。

米ドル/円レートの推移



米ドル・円短期金利の推移



出所: ブルームバーグ、一般社団法人投資信託協会
提供データを基にアセットマネジメントOneが作成。

運用概況

主として企業のファンダメンタルズ分析などに基づくボトムアップアプローチにより銘柄選択を行いました。

格付別構成比率では、ベンチマーク対比でBB格のアンダーウェイト、CCC格のオーバーウェイトを維持しました。B格については、ニュートラルから小幅アンダーウェイトとしました。

業種別構成比率では、ベンチマーク対比でヘルスケアセクターのオーバーウェイト、通信セクターのアンダーウェイトを維持しました。エネルギーセクターについては、原油価格の下落を背景に相対的な投資妙味が高まりつつあると判断し、アンダーウェイト幅を縮小しました。

今後の運用方針

米国景気は緩やかに拡大していると思われる中、相対的に高い利回りを求める投資家需要や、米連邦準備制度理事会(FRB)のハト派姿勢、歴史的な低水準で推移するデフォルト(企業の倒産)率など好調なファンダメンタルズが同市場の下支え要因になると考えます。一方、米中貿易摩擦の長期化や世界景気の減速懸念、欧米政治情勢を巡る不透明感の高まりなどから、リスク回避姿勢が強まる可能性には留意が必要です。また、米国ハイールド・インデックスの構成比のうちエネルギーセクターが最大の割合を占めていることから、引き続き原油価格の動向についても注視しています。

業種配分は、米国の国内需要の下支えが見込まれることから、素材セクターの組入比率を高めにします。またヘルスケアセクターについては、病院等の経営改善の進行が見込まれることなどから、引き続き組入比率を高めにします。

一方、通信セクターについては、価格競争の激化が企業の利益率の圧縮に繋がっていることなどを懸念し、組入比率を抑制します。

これらの環境を踏まえ、引き続き定性分析・定量分析に市場環境分析を加え、良質な資産と優良な経営陣を持つ企業を重点的に抽出し、的確な銘柄選択に努めることでリターンを追求して参ります。

当資料はファンドの運用状況に関する情報提供を目的としてアセットマネジメントOneが作成した資料であり、投資信託説明書(交付目論見書)ではありません。後述の「投資信託ご購入の注意」、「当資料のお取扱いについてのご注意」をよくお読みください。



みずほUSハイールドオープン（年1回決算型）

< ご参考 >

2019/5/31現在

基準価額の変動要因(過去12ヵ月) (下記の数値は概算値であり、その完全性、正確性を保証するものではありません。)

為替ヘッジあり

年/月	18/6	18/7	18/8	18/9	18/10	18/11	18/12	19/1	19/2	19/3	19/4	19/5
基準価額(月末値)	11,930	12,015	12,105	12,141	11,820	11,674	11,284	11,763	11,968	12,035	12,187	12,090
前月末比	-23	85	90	36	-321	-146	-390	479	205	67	152	-97
為替レート変動	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
債券価格変動	-47	52	65	12	-338	-173	-396	465	186	51	130	-117
債券利金収入	58	66	60	55	66	60	56	64	55	58	57	70
その他要因等	-20	-18	-20	-17	-33	-19	-37	-34	-23	-28	-21	-32
分配金支払	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
信託報酬	-14	-15	-15	-14	-16	-14	-13	-16	-13	-14	-14	-17

(円)

為替ヘッジなし

年/月	18/6	18/7	18/8	18/9	18/10	18/11	18/12	19/1	19/2	19/3	19/4	19/5
基準価額(月末値)	13,782	13,968	14,108	14,481	14,102	13,975	13,259	13,640	14,137	14,261	14,576	14,181
前月末比	223	186	140	373	-379	-127	-716	381	497	124	315	-395
為替レート変動	224	59	6	311	-38	27	-293	-238	233	13	108	-322
債券価格変動	-55	60	76	13	-404	-209	-476	560	217	61	155	-140
債券利金収入	66	77	72	65	79	72	67	77	63	69	68	83
その他要因等	3	7	4	0	2	-1	2	0	-1	-1	0	4
分配金支払	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
信託報酬	-16	-18	-17	-16	-19	-17	-15	-18	-16	-16	-16	-20

(円)

※上記の基準価額の変動要因分解は、該当期間中の日々の為替レートや利金収入などを基に、アセットマネジメントOneが算出した概算値であり、傾向を説明する為の参考値です。その他要因等は基準価額前月末比より、為替レート変動、債券価格変動、債券利金収入、分配金支払、信託報酬を引いて算出したものです。

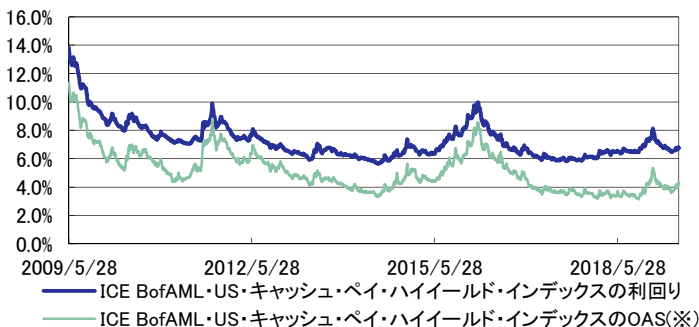
<ご参考> 為替推移(月末値)

年/月	18/6	18/7	18/8	18/9	18/10	18/11	18/12	19/1	19/2	19/3	19/4	19/5
米ドル/円(仲値)	110.54	111.01	111.06	113.57	113.26	113.47	111.00	108.96	110.87	110.99	111.85	109.36

(円)

主な市場データ (期間: 2009/5/28~2019/5/30)

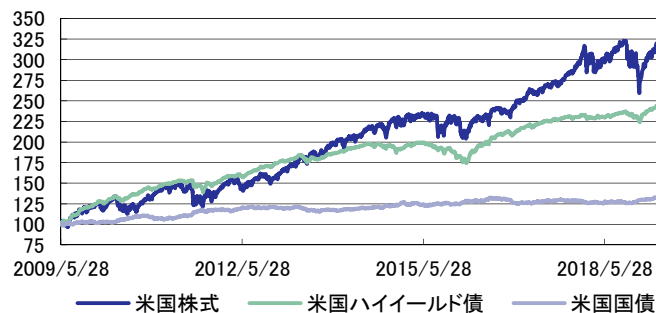
米国におけるハイールド債の利回りと利回り格差の推移



ICE BofAML・US・キャッシュ・ペイ・ハイールド・インデックスは、米国ハイールド債の各種属性を表す代表的な指数です。

※OAS(オプション・アジャステッド・スプレッド)とは、同年限の米国国債に対するオプション調整後の利回り格差をあらわします。同指数はICE Data Indices, LLCが独自に開発した手法に基づき算出した値です。

米国ハイールド債市場等の推移



米国株式はS&P500種指数、米国ハイールド債はICE BofAML・US・キャッシュ・ペイ・ハイールド・インデックス、米国国債はICE BofAML・US・トレジャリー・インデックスのデータ(米ドルベース)を用い、2009/5/28を100として指数化しています。

出所:ブルームバーグのデータ、ICE Data Indices, LLCのデータを基にアセットマネジメントOneが作成。当資料はファンドの運用状況に関する情報提供を目的としてアセットマネジメントOneが作成した資料であり、投資信託説明書(交付目論見書)ではありません。後述の「投資信託ご購入の注意」、「当資料のお取扱いについてのご注意」をよくお読みください。

ファンドの特色(くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)を必ずご覧ください)

みずほUSハイイールドオープン(年1回決算型)為替ヘッジあり/為替ヘッジなしは、主として米国の米国ドル建ての高利回り債(以下「ハイイールド債」といいます。)に投資を行い、信託財産の成長と安定した収益の確保を目指します。

1. 米国の米国ドル建てのハイイールド債を主要投資対象とします。

- ◆綿密な調査に基づく銘柄の選択と適度な銘柄分散によって信用リスク等をコントロールしつつ、高い利回りの享受を目指します。
- ◆各ファンドは、「LA米国ドル建てハイイールド債マザーファンド」をマザーファンドとするファミリーファンド方式で運用を行います。

2. 「為替ヘッジあり」と、「為替ヘッジなし」のいずれかを選択できます。*

※販売会社によっては「為替ヘッジあり」もしくは「為替ヘッジなし」のどちらか一方のみの取扱いとなる場合があります。

- ◆「為替ヘッジあり」は、組入外貨建資産に対して、原則として為替ヘッジを行い為替変動リスクの低減を図りますが、為替ヘッジを行うにあたりヘッジコストがかかります。
 - ◆「為替ヘッジなし」は、組入外貨建資産に対して、原則として為替ヘッジを行わないため、為替変動の影響を直接的に受け、円高局面ではその資産価値を大きく減少させる可能性があります。
 - ◆「為替ヘッジあり」と「為替ヘッジなし」の間でスイッチング(乗換え)ができます。
- ※販売会社によっては、スイッチングの取扱いを行わない場合、またはスイッチングの取扱いに一定の制限を設ける場合があります。

※スイッチングの際は、換金時と同様に信託財産留保額(1口につき、換金申込受付日の翌営業日の基準価額の0.2%)および税金(課税対象者の場合)がかかりますのでご注意ください。また、購入時手数料は販売会社が別に定めます。

◆各ファンドは、以下をベンチマークとします。

- 為替ヘッジあり・・・ICE BofAML・US・キャッシュ・ペイ・ハイイールド・インデックス(円ヘッジベース)^{※1}
- 為替ヘッジなし・・・ICE BofAML・US・キャッシュ・ペイ・ハイイールド・インデックス(円ベース)^{※2}

※1 「ICE BofAML・US・キャッシュ・ペイ・ハイイールド・インデックス(円ヘッジベース)」とは、ICE BofAML US Cash Pay High Yield Index (US\$ベース)からヘッジコストを考慮して円換算したものです。

※2 「ICE BofAML・US・キャッシュ・ペイ・ハイイールド・インデックス(円ベース)」とは、ICE BofAML US Cash Pay High Yield Index (US\$ベース)をもとに、委託会社が独自に円換算したものです。

ICE Data Indices, LLC(「ICE Data」)、その関係会社及びそれらの第三者サプライヤーは、明示又は黙示のいずれかを問わず、インデックス、インデックス・データ、及びそれらに含まれ、関連し、又は派生する一切のデータを含めて、商品性又は特定の目的若しくは使用への適合性の保証を含む一切の表明及び保証を否認します。ICE Data、その関係会社又はそれらの第三者サプライヤーは、インデックス、インデックス・データ若しくはそれらの構成要素の適切性、正確性、適時性又は完全性について、なんら損害賠償又は責任を負わず、インデックス、インデックス・データ及びそれらの全ての構成要素は、現状有姿において提供されるものであり、自らの責任において使用いただくものです。ICE Data、その関係会社及びそれらの第三者サプライヤーは、アセットマネジメントOne(株)又はその製品若しくはサービスを後援、推薦又は推奨するものではありません。

* ベンチマークは米国債券市場の構造変化等によっては今後見直す場合があります。

3. マザーファンドの運用は、ロード・アベット社が行います。

- ◆運用の効率化を図るため、マザーファンドにおける運用指図に関する権限をロード・アベット社(正式名称:ロード・アベット・アンド・カンパニー エルエルシー)に委託します。

* 市場動向やファンドの資金動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

当資料はファンドの運用状況に関する情報提供を目的としてアセットマネジメントOneが作成した資料であり、投資信託説明書(交付目論見書)ではありません。後述の「投資信託ご購入の注意」、「当資料のお取扱い」についてのご注意をよくお読みください。

主な投資リスクと費用(くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)を必ずご覧ください)

各ファンドは、値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)に投資しますので、ファンドの基準価額は変動します。これらの運用による損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。したがって、投資者のみなさまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。また、投資信託は預貯金と異なります。

信用リスク

各ファンドが主要投資対象とするハイイールド債は、信用度が高い高格付けの債券と比較して、相対的に高い利回りを享受することが期待できる一方で、発行体の業績や財務内容等の変化により、債券価格が大きく変動する傾向があり、かつ発行体が財政難、経営不振、その他の理由により、利息や償還金をあらかじめ決められた条件で支払うことができなくなる可能性も高いと考えられます。各ファンドが投資するハイイールド債等の発行体がこうした状況に陥った場合には、各ファンドの基準価額が下落する要因となります。

金利変動リスク

一般に金利が上昇した場合には、既に発行されて流通している公社債の価格は下落します。金利上昇は、各ファンドが投資する公社債の価格に影響を及ぼし、各ファンドの基準価額を下落させる要因となります。

為替変動リスク

「為替ヘッジあり」では、原則として為替ヘッジを行い為替変動リスクの低減を図りますが、為替ヘッジを行うにあたりヘッジコストがかかります。

「為替ヘッジなし」では、原則として為替ヘッジを行わないため、投資対象通貨(主として米ドル)と円との外国為替相場が円高となった場合には、ファンドの基準価額が下落する要因となります。

流動性リスク

各ファンドが主要投資対象とするハイイールド債は、一般的に信用度が高い高格付けの債券と比較して、市場規模や取引量が相対的に小さいため、投資環境によっては、機動的な売買ができない可能性があります。各ファンドが保有するハイイールド債等において流動性が損なわれた場合には、各ファンドの基準価額が下落する要因となる可能性があります。

※基準価額の変動要因は上記に限定されるものではなく、上記以外に「カントリーリスク」、「ファミリーファンド方式で運用する影響」などがあります。

各ファンドへの投資に伴う主な費用は購入時手数料、信託報酬などです。

費用の詳細につきましては、当資料中の「ファンドの費用」および投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

収益分配金に関する留意事項

- ・投資信託の分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- ・分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- ・投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

当資料はファンドの運用状況に関する情報提供を目的としてアセットマネジメントOneが作成した資料であり、投資信託説明書(交付目論見書)ではありません。後述の「投資信託ご購入の注意」、「当資料のお取扱い」についてのご注意をよくお読みください。

お申込みメモ(くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)を必ずご覧ください)

購入単位	販売会社が定める単位(当初元本1口=1円)
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額(基準価額は1万口当たりで表示しています。)
購入代金	販売会社が定める期日までにお支払いください。
換金単位	販売会社が定める単位
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を控除した価額
換金代金	原則として換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。
申込締切時間	原則として営業日の午後3時まで販売会社が受けたものを当日分のお申込みとします。
購入・換金申込不可日	以下のいずれかに該当する日には、購入・換金・スイッチングのお申込みの受付を行いません。 ・ニューヨーク証券取引所の休業日 ・ニューヨークの銀行の休業日
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の換金請求等に制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止および取消し	信託財産の効率的な運用または受益者に対する公平性を期する運用が妨げられると委託会社が合理的に判断する場合、取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金・スイッチングのお申込みの受付を中止すること、およびすでに受けた購入・換金・スイッチングのお申込みの受付を取り消すことがあります。
信託期間	2028年6月7日まで(2013年9月6日設定)
繰上償還	次のいずれかに該当する場合には、受託会社と合意の上、信託契約を解約し、当該信託を終了(繰上償還)することがあります。 ・信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき。 ・やむを得ない事情が発生したとき。 ・信託契約の一部解約により、受益権の口数が10億口を下回ることとなるとき。
決算日	毎年6月7日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年1回の毎決算日に、収益分配方針に基づいて収益分配を行います。 ※お申込コースには、「一般コース」と「自動けいぞく投資コース」があります。ただし、販売会社によっては、どちらか一方のみの取扱いとなる場合があります。詳細は販売会社までお問い合わせください。
課税関係	課税上は株式投資信託として取り扱われます。 公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度および未成年者少額投資非課税制度の適用対象です。 ※原則、収益分配金の普通分配金ならびに換金時の値上がり益および償還時の償還差益に対して課税されます。 ※税法が改正された場合等には、上記内容が変更となることがあります。
その他	販売会社によっては「為替ヘッジあり」もしくは「為替ヘッジなし」のどちらか一方のみの取扱いとなる場合があります。詳細は委託会社または販売会社までお問い合わせください。

ファンドの費用(くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)を必ずご覧ください)

下記の手数料等の合計額、その上限額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することができません。
※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

●投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入申込金額(購入申込口数に購入価額を乗じた額)に、 3.24%(税抜3.0%) を上限として、販売会社が別に定める手数料率を乗じて得た額となります。
信託財産留保額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額に 0.2% の率を乗じて得た額を、換金時にご負担いただきます。

●投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用(信託報酬)	各ファンドの日々の純資産総額に対して 年率1.458%(税抜1.35%) ※運用管理費用(信託報酬)は、毎日計上され、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日および毎計算期末または信託終了のとき各ファンドから支払われます。 ※委託会社の信託報酬には、LA米国ドル建てハイイールド債マザーファンドの運用指図に関する権限の委託を受けた投資顧問会社(ロード・アベット社)に対する報酬(各ファンドの信託財産の純資産総額に対して年率0.375%)が含まれます。
その他の費用・手数料	その他の費用・手数料として、お客様の保有期間中、以下の費用等を信託財産からご負担いただきます。 ・組入価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料 ・信託事務の処理に要する諸費用 ・外国での資産の保管等に要する費用 ・監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用 等 監査費用は毎日計上され、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日および毎計算期末または信託終了のとき、その他の費用等は都度ファンドから支払われます。 ※これらの費用等は、定期的に見直されるものや売買条件等により異なるものがあるため、事前に料率・上限額等を示すことができません。

当資料はファンドの運用状況に関する情報提供を目的としてアセットマネジメントOneが作成した資料であり、投資信託説明書(交付目論見書)ではありません。後述の「投資信託ご購入の注意」、「当資料のお取扱い」についてのご注意をよくお読みください。

投資信託ご購入の注意

投資信託は、

- ① 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象にもなりません。
- ② 購入金額については元本保証および利回り保証のいずれもありません。
- ③ 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。

当資料のお取扱いについてのご注意

- 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成した販売用資料です。
- お申込みに際しては、販売会社からお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は、主に国内外の株式、公社債および不動産投資信託などの値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。
- 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

◆ファンドの関係法人 ◆

<委託会社>アセットマネジメントOne株式会社
 [ファンドの運用の指図を行う者]
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第324号
 加入協会:一般社団法人投資信託協会
 一般社団法人日本投資顧問業協会
 <受託会社>みずほ信託銀行株式会社
 [ファンドの財産の保管および管理を行う者]
 <販売会社>販売会社一覧をご覧ください

◆委託会社の照会先 ◆

アセットマネジメントOne株式会社
 コールセンター 0120-104-694
 (受付時間:営業日の午前9時~午後5時)
 ホームページ URL <http://www.am-one.co.jp/>

販売会社一覧(お申込み、投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は、以下の販売会社へお申し出ください)

取扱いファンドおよび加入している金融商品取引業協会を○で示しています。

為替ヘッジあり	為替ヘッジなし	販売会社	登録番号等	日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会	備考
○	○	株式会社SBI証券	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第44号	○		○	○	
	○	株式会社証券ジャパン	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第170号	○				
○	○	高木証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第20号	○				
○	○	PWM日本証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第50号	○			○	
○	○	松井証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第164号	○		○		
○	○	楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○	
○	○	株式会社イオン銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第633号	○				
	○	株式会社愛媛銀行	登録金融機関 四国財務局長(登金)第6号	○				□
○	○	株式会社きらやか銀行	登録金融機関 東北財務局長(登金)第15号	○				
○	○	株式会社仙台銀行	登録金融機関 東北財務局長(登金)第16号	○				
○	○	株式会社第三銀行	登録金融機関 東海財務局長(登金)第16号	○				□
○	○	株式会社名古屋銀行	登録金融機関 東海財務局長(登金)第19号	○				
○	○	株式会社北越銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第48号	○		○		
○	○	株式会社北都銀行	登録金融機関 東北財務局長(登金)第10号	○				
○	○	株式会社みずほ銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第6号	○		○	○	
○	○	みずほ信託銀行株式会社	登録金融機関 関東財務局長(登金)第34号	○	○	○		
○	○	株式会社横浜銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第36号	○		○		
○	○	株式会社琉球銀行	登録金融機関 沖縄総合事務局長(登金)第2号	○				

※上記の表は、アセットマネジメントOne株式会社が基準日時点で知りうる信頼性が高いと判断した情報等から、細心の注意を払い作成したものです。その正確性、完全性を保証するものではありません。

※備考欄の「□」は、現在、各ファンドの新規の募集・販売を停止している販売会社を示しています。

※お客さまへの投資信託説明書(交付目論見書)の提供は、販売会社において行います。